

中央防災会議等で扱われている地震の 被害想定 の概略

目 次

(1) 中央防災会議で扱われている名古屋都市圏に関する想定地震.....	1
(2) 東海地震の被害想定(東海地震対策専門調査会)	4
(3) 東南海・南海地震の被害想定(東南海、南海地震等に関する専門調査会)	13
(4) 断層帯による地震の被害想定	19

概 要

□ ケーススタディにおいて想定する地震

東海地震、東南海地震に加え、名古屋市、岐阜市に連なる仮想の断層（名古屋・岐阜断層）、養老断層、桑名断層により引き起こされる地震と、三河地震を想定することとする。これらは、中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」においても検討の位置づけはなされており、名古屋・岐阜断層は名古屋都市圏の直下あるいは近郊で地震が発生し、甚大な被害が引き起こされる直下型地震として、名古屋市西部にある養老断層と四日市市にかかる桑名断層は大都市近郊の地震として、また、三河地震はこれらとは性質の異なる地震として想定されているものである。

□ 東海地震の被害想定

- 震度分布については、静岡県伊豆半島から愛知県渥美半島の広域に渡り、震度 6 強以上となる。
- 津波の高さは、静岡県御前崎から愛知県渥美半島にかけた遠州灘沿岸で 5～10m に達すると想定される。
- 建物被害は、静岡県内の他、愛知県豊橋市周辺においても大きな被害が出るものと想定される。
- 午前 5 時で予知情報がない場合、全壊棟数は 230,000～263,000 棟、死者数は約 8,300～約 10,000 人、経済被害は直接被害で約 26 兆円と想定される。

□ 東南海・南海地震の被害想定

- 震度分布については、静岡県南部から愛知県南部（渥美半島・知多半島）にかけて、また四日市港湾岸から志摩半島にかけての広範囲に渡り、震度 6 強以上となる。
- 満潮時の津波の高さは、渥美半島付近で 3m、豊橋市付近では 6m に達する。
- 建物倒壊の分布については、湾岸部の他、稠密な市街地を形成している名古屋都市圏において建物倒壊数が大きくなっている。
- 午前 5 時の場合、全壊棟数は、愛知県で約 80,800～約 90,300 棟、三重県で約 45,300～54,200 棟、岐阜県で約 4,000 棟に達する。また、同時間に地震が発生した場合、死者数は、愛知県で約 1,700～1,800 人、三重県で約 1,900～2,600 人、岐阜県で約 20 人と想定される。

□ 関ヶ原 - 養老断層（岐阜県による被害想定）

- 濃尾平野を中心に震度 6 弱以上の強い揺れとそれによる液状化が懸念される。
- 建物やライフライン系の被害は、都市化の進んでいる岐阜市、大垣、羽島市などで目立ち、死者は、岐阜市・大垣市とその周辺で多数発生する。

□ 桑名断層（三重県による被害想定）

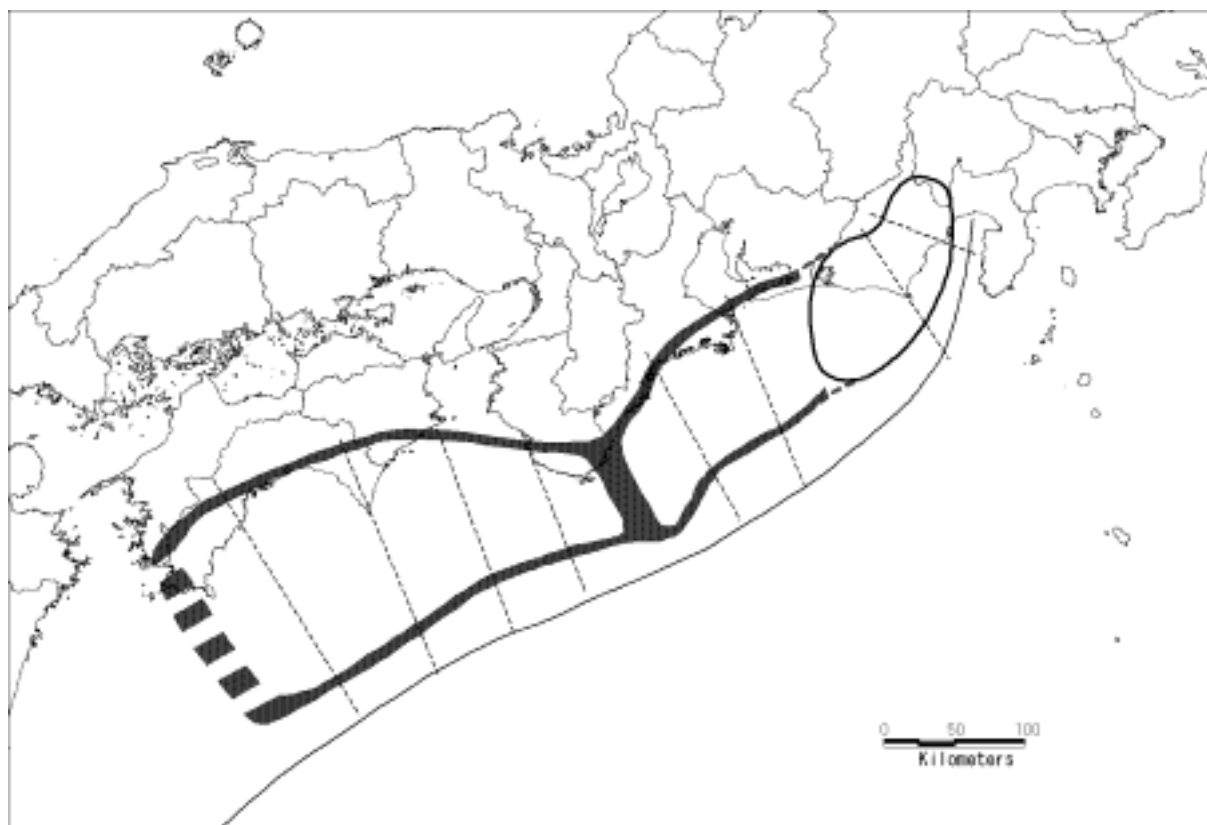
- 北勢地域の一部で震度 7 の極めて強い揺れ。
- 津波の心配はない。
- 四日市市で死亡者約 1,300 人、負傷者約 11,000 人。

(1) 中央防災会議で扱われている名古屋都市圏に関する想定地震

中央防災会議では、平成13年1月に「東海地震に関する専門調査会」を設置し、想定される東海地震の震源域及びこれによる地震の揺れ、津波の高さ等について検討した。また、平成14年3月に「東海地震対策専門調査会」を設置し、平成15年3月、同会は、東海地震に係る新たな想定震源域に基づく被害についての検討結果を発表している。

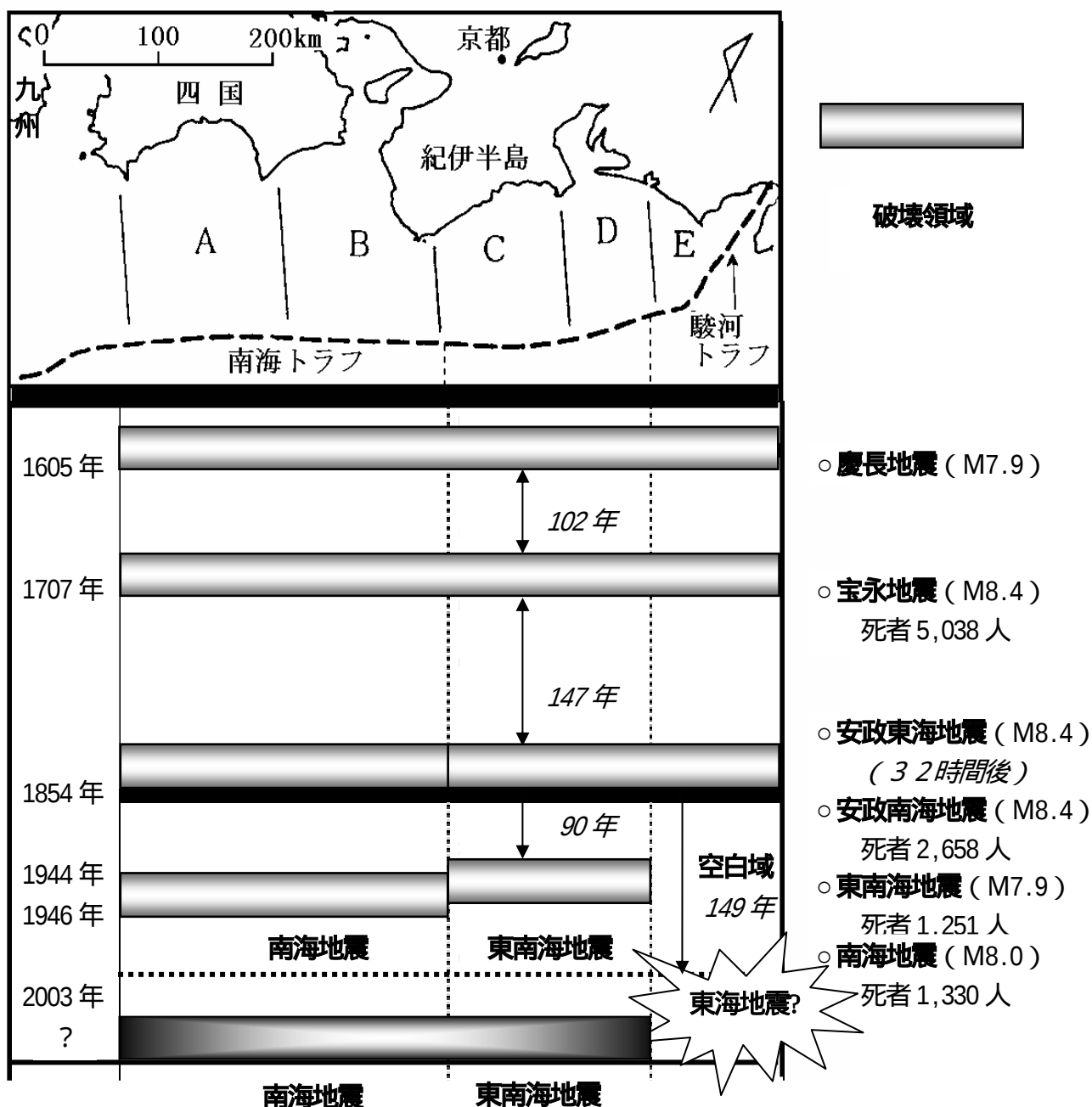
さらに、中央防災会議では、平成13年10月に「東南海、南海地震等に関する専門調査会」を設置し、東南海・南海地震に加え、中部圏及び近畿圏において甚大な被害を及ぼすおそれがあるいくつかの主要活断層の地震を想定し、検討している。平成15年4月、同会は、東南海・南海地震による被害想定について発表しており、今後、三河地震、養老・桑名及び岐阜・名古屋の各活断層による地震についても検討を進めていくこととしている。

■ 想定震源域とセグメントの概念図



出典：東南海、南海地震等に関する専門調査会第3回資料

■ 東海地震、東南海・南海地震について



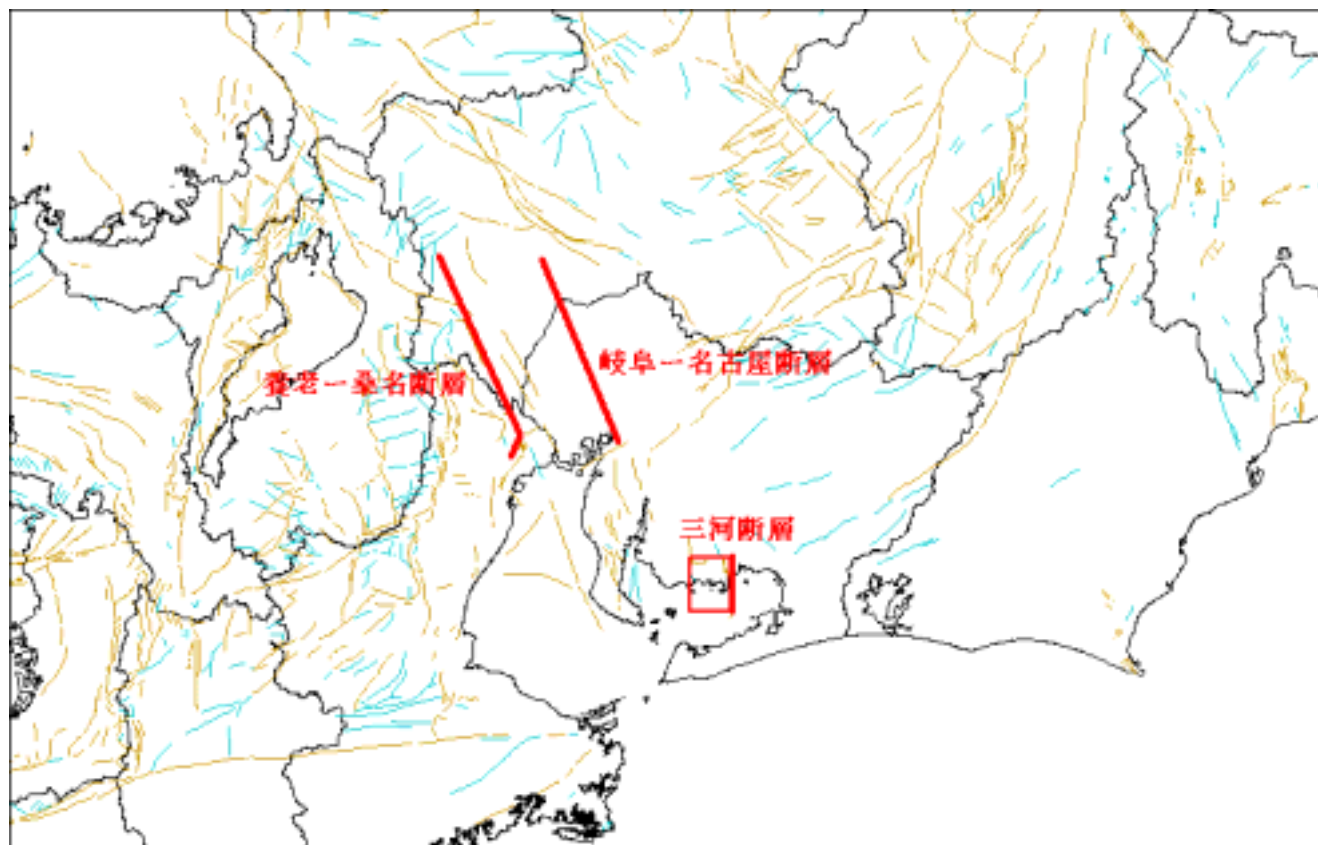
○ 東海地震

東南海地震(1944)で歪みが解放されず、安政東海地震(1854)から約 150 年間大地震が発生していないため、相当な歪みが蓄積されていることから、いつ大地震が発生してもおかしくないとみられている。

○ 東南海・南海地震

おおむね 100～150 年の間隔で発生しており、今世紀前半での発生が懸念されており、中部圏、近畿圏などの防災対策を早急に確立していく必要がある。

■ 三河地震、養老・桑名及び岐阜・名古屋の各活断層の位置さ



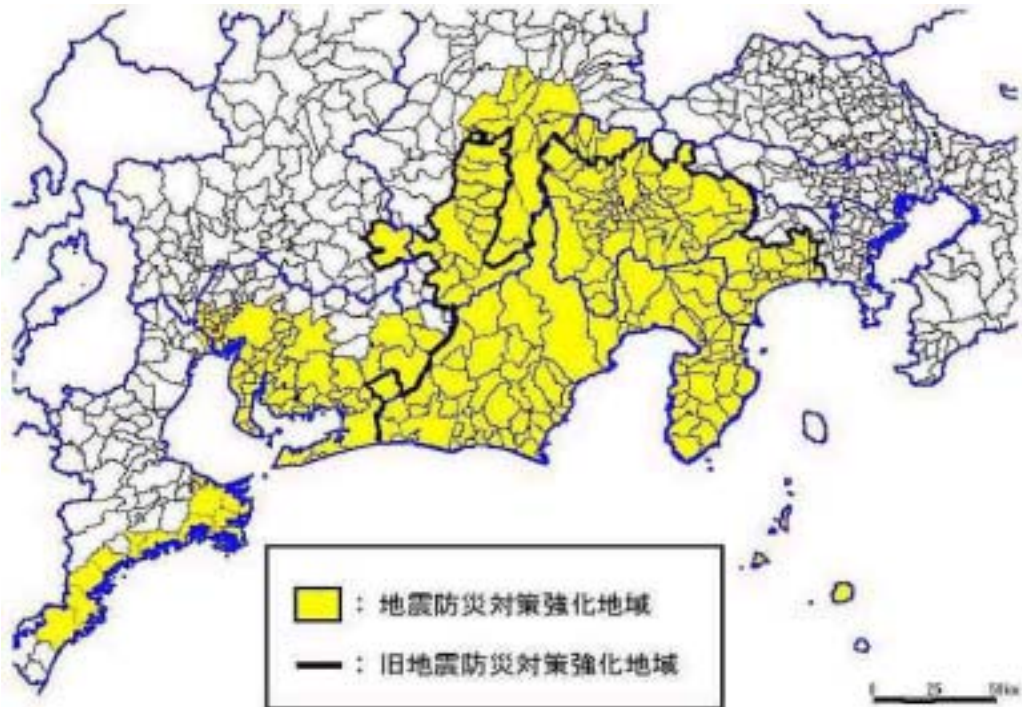
(2) 東海地震の被害想定 (東海地震対策専門調査会)

東海地震は、東南海地震 (1944) で歪みが解放されず、安政東海地震 (1854) から約150年間大地震が発生していないため、相当な歪みが蓄積されていることから、いつ大地震が起きてもおかしくないとみられている。

中央防災会議「東海地震対策専門調査会」では、平成14年4月に、東海地震に係る地震防災対策強化地域の指定見直しを行った。また、平成15年3月18日に、中央防災会議「東海地震対策専門調査会」(座長: 岡田恒男 芝浦工業大学教授) が、東海地震対策の検討の基礎とするため、東海地震に係る新たな想定震源域に基づく被害について検討を行った結果を発表した。これによると、阪神・淡路大震災を超える大被害が広域に発生することが想定されることから、広域の防災体制の確立等の対策を早急に講じる必要があるとしている。

そこで、本資料では、先の3月18日に中央防災会議「東海地震対策専門調査会」が発表した東海地震による名古屋都市圏の被害概略を把握する。

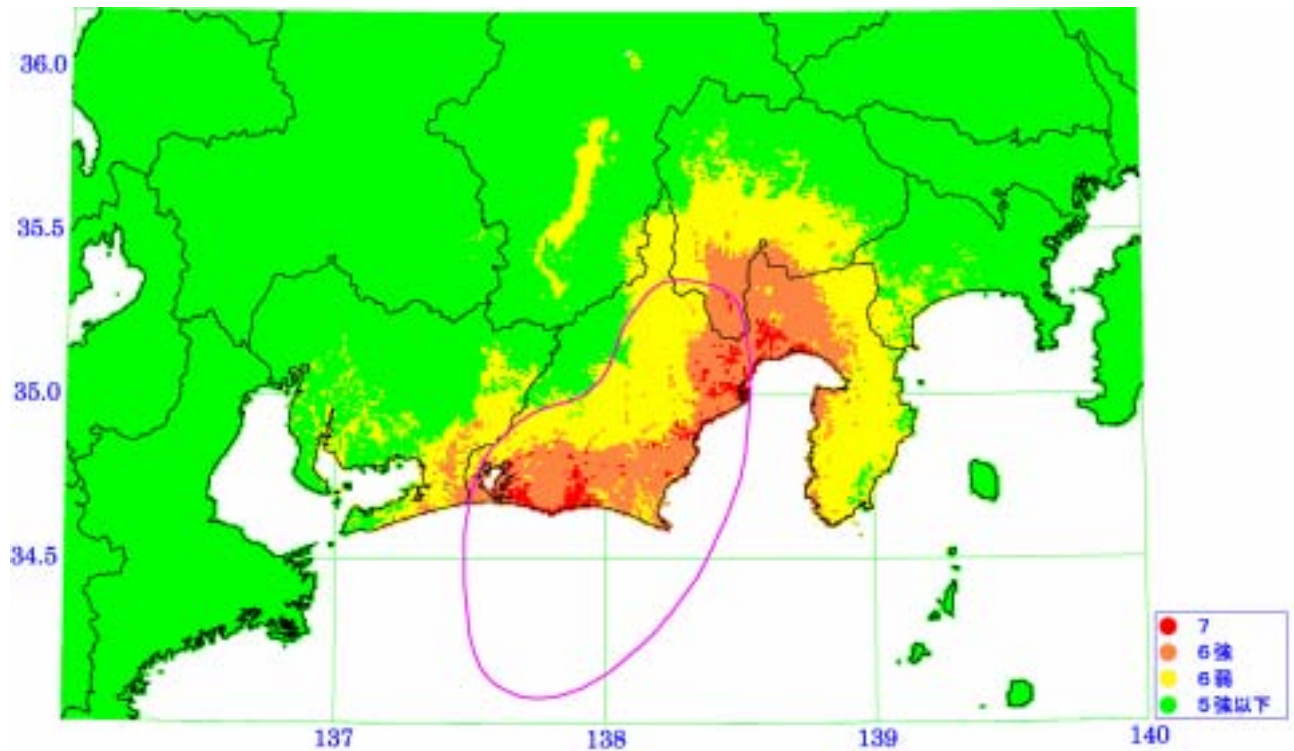
■ 東海地震強化地域



出典：気象庁HP

震度分布

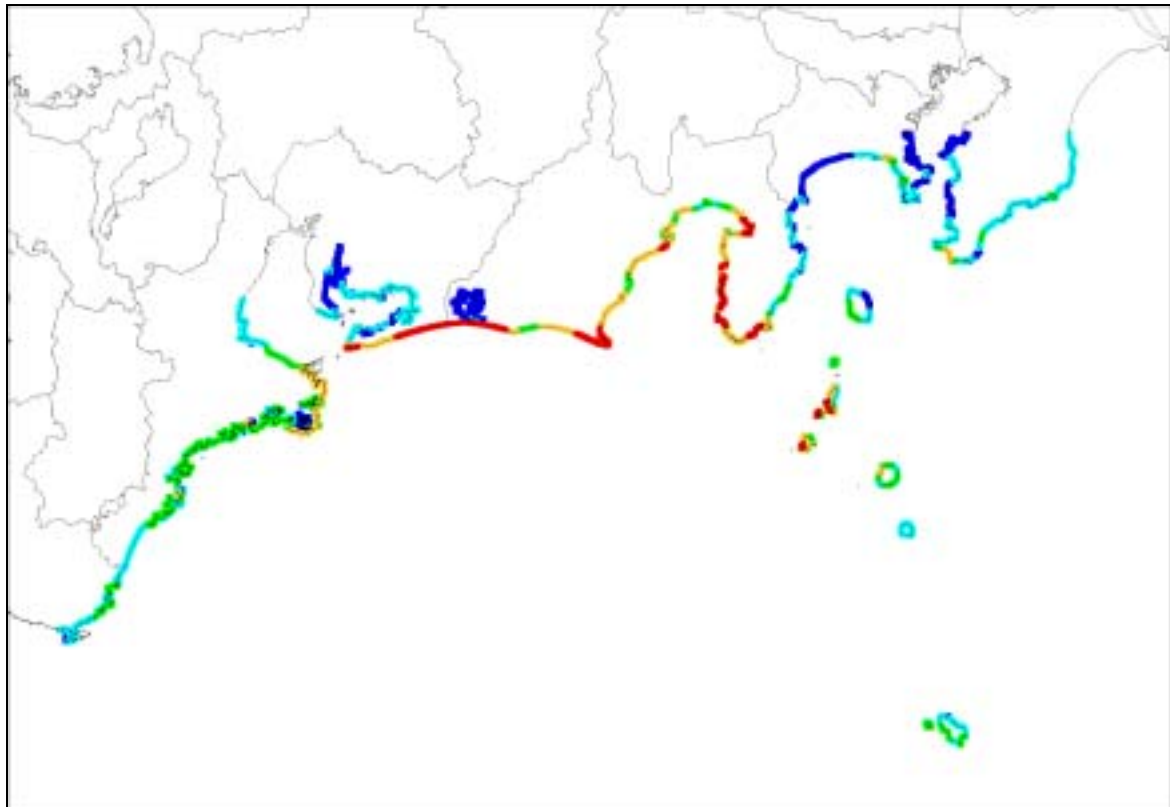
- 静岡県伊豆半島から、愛知県渥美半島の広域に渡り、震度6強以上となる。



出典：内閣府HP

波高分布

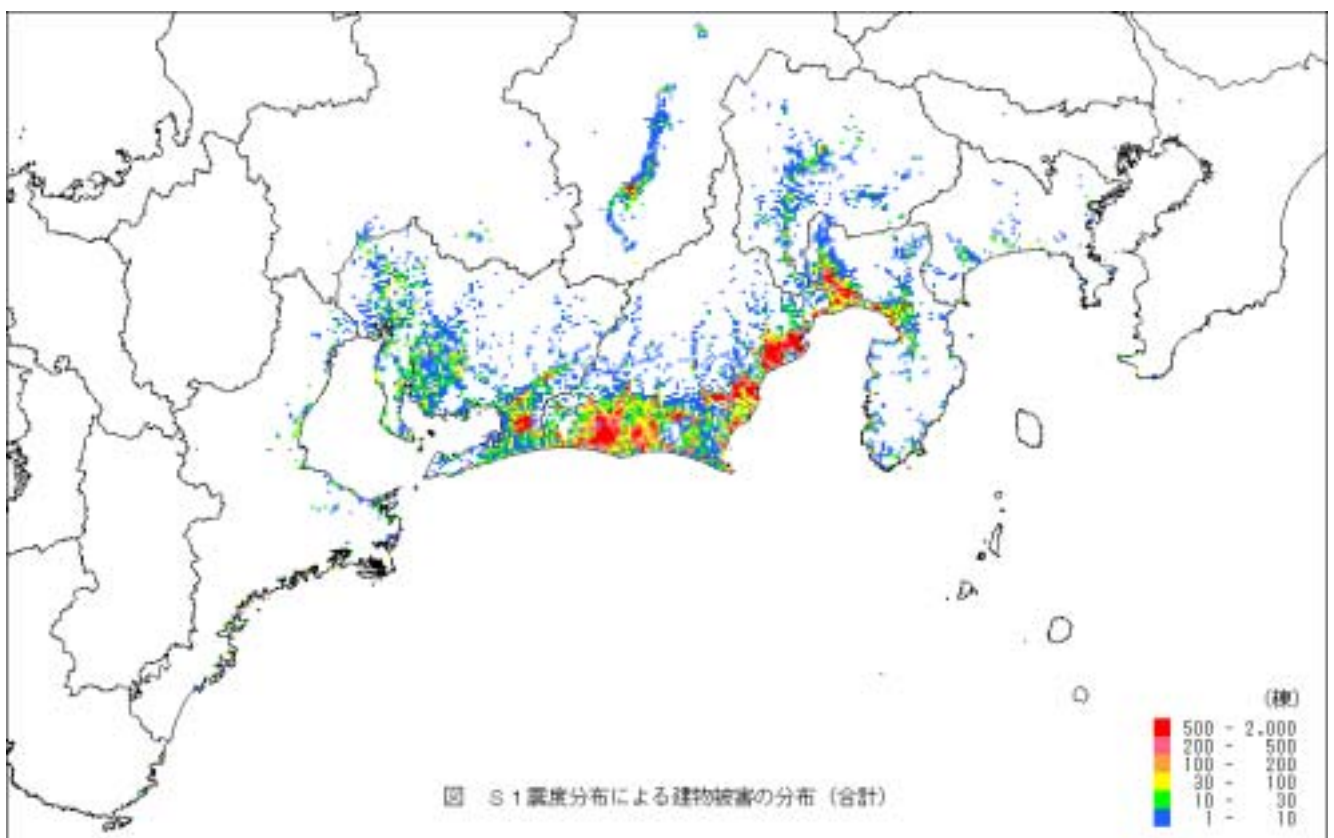
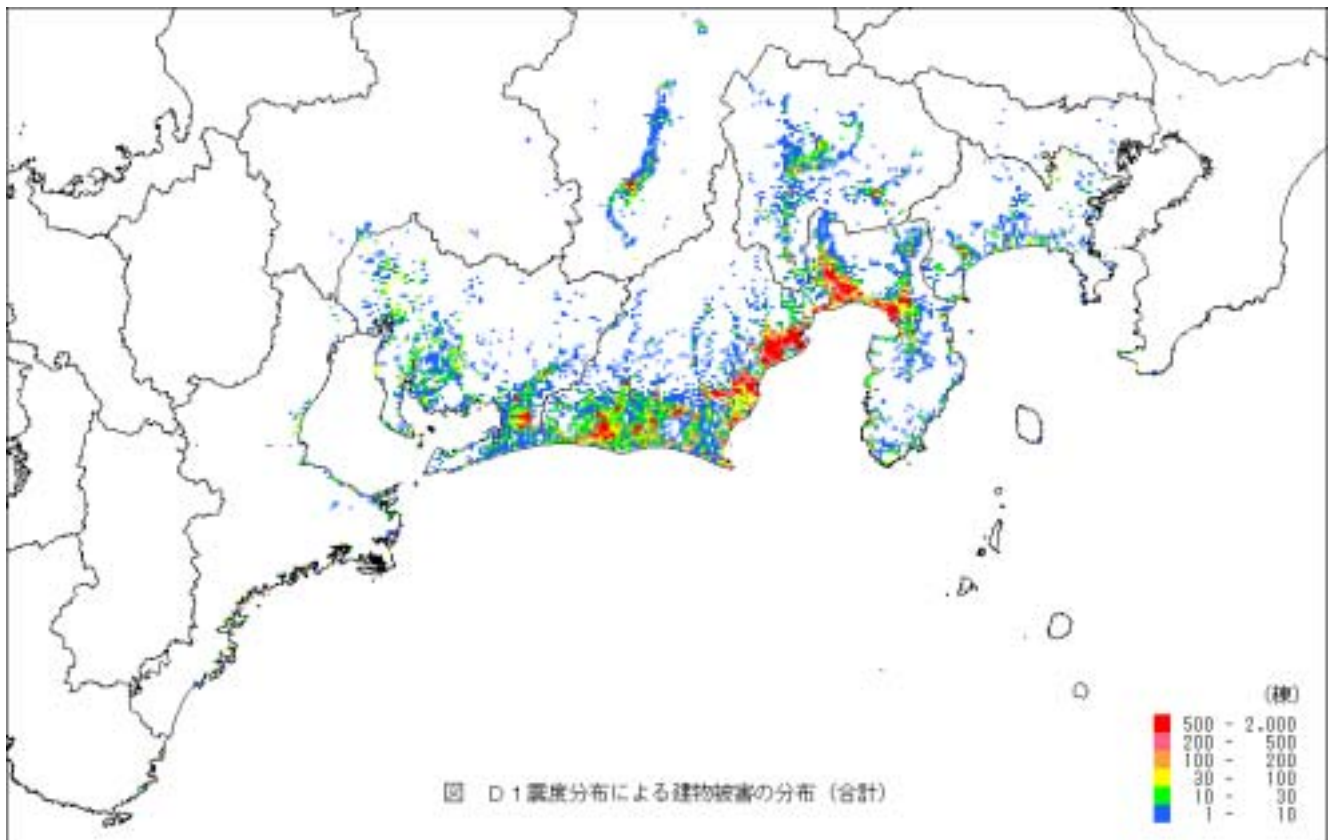
- 津波の高さは、渥美半島から御前崎にかけての遠州灘沿岸で5～10mに達すると想定される。



出典：内閣府HP

建物被害の分布

- 静岡県内その他、愛知県豊橋市周辺においても大きな建物被害が出るものと想定される。
(Sモデル及びDモデルについては、次ページを参照)



出典：内閣府資料

全壊棟数、死者数、経済被害の算出結果

- 中央防災会議「東海地震対策専門調査会」では、下記の想定のもと、被害想定を実施した。その結果、午前5時の全壊棟数は、最大で揺れにより全国で約170,000棟、その他液状化、津波、斜面災害、火災（風速15mの場合）の影響を含めるとその被害は約230,000棟～263,000棟に達すると想定されている（S1モデル、予知情報無しの場合）。
- また、死者数は午前5時の場合が最大となり、全国で建物倒壊により約6,700人、その他津波、斜面崩壊、火災（風速15mの場合）を含めると約8,300人～約10,000人に達すると想定されている。これらの被害のうち、9割前後が静岡県内で発生するものと想定されている。
- 東海地震による経済被害は、直接被害で約26兆円、間接被害で約11兆円（いずれも突発災害の場合）と想定されている（なお、単純に比較はできないが、阪神・淡路大震災の直接被害は約13兆円と推計されている）。

■被害想定的前提

（１）想定基礎となる地震動及び津波の高さ

地震動については、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会」において検討された新たな想定震源域及びこれによる震度分布の結果を踏まえ、過去の実際の地震との整合性等も確認し、想定震度分布の検討を行った。ここで想定されている想定東海地震の規模はマグニチュード8.0である。

地震は様々なパターンで発生するものであるため、強化地域の検討の場合と同様に、被害等を算出するにあたっては、東海地震として想定されるモデルとして「東海地震に関する専門調査会」の検討より採用してきた「応力降下量一定モデル（Sモデル）」と「変位量一定モデル（Dモデル）」の2つのモデルで、さらにそれぞれ2通りの破壊開始点（西側、中央）を想定し、計4ケースを対象に被害を試算した。（平成14年8月29日公表済）また、津波の高さ及び津波の到達時間については、「東海地震に関する専門調査会」の検討結果を用いた。

（２）想定ケースについて

<地震発生時間>

建物被害の影響が最も大きいと考えられる冬の朝5時（阪神・淡路大震災と同様のケース）、職場等多くの人が自宅から離れている秋の昼12時（関東大震災と同様のケース）、及び、火災の影響が最も大きいと考えられる冬の夕方18時の3ケースとした。

<津波の想定>

津波の想定にあたっては、住民の避難意識が高い場合と低い場合に分けて検討を行うとともに、地震動により水門の機能低下等が発生した場合についても検討した。

<火災の想定>

火災の想定にあたっては、阪神・淡路大震災時と同様の風速3mの時と、関東大震災時と同様の風速15mの2種類のケースで検討した。

<地震予知情報の有無>

地震予知情報がなく突発で発災した場合に加え、地震予知情報により警戒宣言が出された場合についても検討した。なお、参考として、震度6弱未満の部分のデータのばらつきを考慮した場合の検討も行った。

出典：「東海地震に係る被害想定結果について」（中央防災会議「東海地震対策専門調査会」/平成15年3月）

■被害想定結果

【S1モデル(全壊棟数)、午前5時の場合】

【予知情報なし】

	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災		合計	
		(参考)				風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
総計	約170,000	約180,000	約26,000	約6,800～約10,000	約7,700	約14,000	約50,000	約230,000	約260,000～約270,000
岐阜県	-	約10	約200		約10	-	-	約200	約200
静岡県	約160,000	約160,000	約9,900	約2,000～約4,500	約5,100	約13,000	約45,000	約190,000	約220,000
愛知県	約11,000	約15,000	約12,000	約600～約1,400	約1,100	約1,000	約3,300	約26,000～約27,000	約28,000～約29,000
三重県	-	-	約800	約3,600	約70	-	-	約4,500	約4,500

【予知情報あり】

	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災		合計	
		(参考)				風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
総計						約7,400	約19,000	約220,000	約230,000
岐阜県	同上					-	-	約200	約200
静岡県						約7,100	約18,000	約180,000	約190,000
愛知県						約300	約1,200	約25,000～約26,000	約26,000～約27,000
三重県						-	-	約4,500	約4,500

【D1モデル(全壊棟数)、午前5時の場合】

【予知情報なし】

	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災		合計	
		(参考)				風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
総計	約150,000	約170,000	約23,000	約6,800～約10,000	約8,500	約12,000	約43,000	約200,000～約210,000	約230,000～約240,000
岐阜県	-	-	約100		-	-	-	約100	約100
静岡県	約140,000	約140,000	約9,800	約2,000～約4,500	約5,700	約12,000	約40,000	約170,000	約200,000
愛知県	約47,000	約74,000	約91,000	約600～約1,400	約500	約700	約1,600	約16,000	約17,000
三重県	-	-	約400	約3,600	約30	-	-	約3,900	約3,900

【予知情報あり】

	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災		合計	
		(参考)				風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
総計						約5,800	約16,000	約200,000	約210,000
岐阜県	同上					-	-	約100	約100
静岡県						約5,800	約16,000	約160,000～約170,000	約170,000～約180,000
愛知県						約300	約1,200	約15,000～約16,000	約15,000～約16,000
三重県						-	-	約3,900	約3,900

【S1モデル(死者数)】

【予知情報なし】

	5時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約6,700	約7,100	約400～約2,200	約700	約200	約600	約7,900～約9,600	約8,300～約10,000
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約6,100	約6,300	約300～約1,700	約500	約200	約500	約7,100～約8,400	約7,400～約8,800
愛知県	約300	約500	0～約20	約100	約10	約40	約500	約500
三重県	-	-	約60～約500	-	-	-	約70～約500	約70～約500

	12時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約3,400	約3,600	約200～約1,000	約400	約80	約300	約4,100～約4,900	約4,300～約5,100
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約3,200	約3,200	約200～約800	約300	約70	約200	約3,700～約4,400	約3,900～約4,500
愛知県	約100	約200	-	約50	-	約10	約200	約200
三重県	-	-	約20～約200	-	-	-	約20～約200	約20～約200

	18時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約3,400	約3,600	約200～約1,000	約500	約600	約1,400	約4,600～約5,500	約5,400～約6,300
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約3,000	約3,100	約200～約800	約300	約500	約1,100	約3,900～約4,500	約4,500～約5,100
愛知県	約300	約400	0～約10	約80	約100	約300	約500	約600
三重県	-	-	約30～約300	-	-	-	約30～約300	約30～約300

【予知情報あり】

	5時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約1,700	約1,900	約50～約300	約100	約80	約200	約2,000～約2,300	約2,100～約2,400
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約1,600	約1,600	約40～約300	約70	約80	約200	約1,800～約2,000	約1,900～約2,100
愛知県	約90	約100	-	約10	-	約10	約100	約100
三重県	-	-	0～約80	-	-	-	約10～約80	約10～約80

	12時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約900	約900	約30～約200	約70	約40	約100	約1,000～約1,100	約1,100～約1,200
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約800	約800	約20～約100	約50	約40	約100	約900～約1,000	約1,000～約1,100
愛知県	約40	約50	-	-	-	-	約50	約50
三重県	-	-	0～約30	-	-	-	0～約30	0～約30

	18時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約900	約900	約30～約200	約70	約100	約400	約1,100～約1,200	約1,400～約1,500
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約800	約800	約20～約100	約40	約100	約300	約900～約1,000	約1,200～約1,300
愛知県	約70	約100	-	約10	約20	約60	約100	約100
三重県	-	-	0～約40	-	-	-	0～約40	0～約40

【D1モデル(死者数)】

【予知情報なし】

	5時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約6,000	約6,600	約400～約2,200	約800	約100	約500	約7,300～約9,200	約7,600～約9,500
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約5,500	約5,700	約300～約1,700	約500	約100	約500	約6,400～約7,800	約6,700～約8,100
愛知県	約100	約200	0～約20	約50	-	約20	約200	約200
三重県	-	-	約60～約500	-	-	-	約60～約500	約60～約500

	12時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約3,100	約3,300	約200～約1,000	約500	約70	約200	約3,800～約4,700	約4,000～約4,800
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約2,900	約3,000	約20～約800	約400	約70	約200	約3,400～約4,100	約3,600～約4,300
愛知県	約60	約100	-	約30	-	-	約90～約100	約100
三重県	-	-	約20～約200	-	-	-	約20～約200	約20～約200

	18時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速15m	風速3m	風速15m
全国	約3,000	約3,300	約200～約1,100	約500	約500	約1,300	約4,200～約5,100	約5,000～約5,900
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約2,700	約2,800	約200～約800	約300	約400	約1,100	約3,600～約4,200	約4,200～約4,900
愛知県	約100	約200	0～約10	約40	約70	約200	約200	約300
三重県	-	-	約30～約300	-	-	-	約30～約300	約30～約300

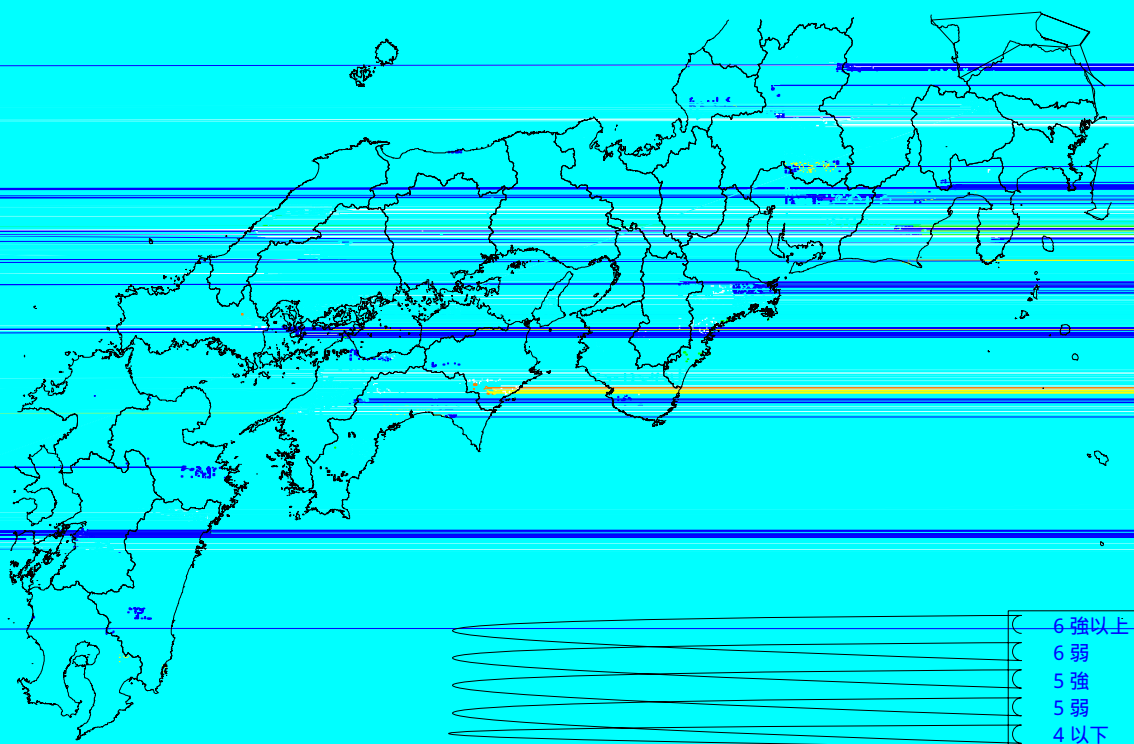
【予知情報あり】

	5時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速 15m	風速3m	風速 15m
全国	約 1,600	約 1,700	約 50～約 300	約 100	約 70	約 200	約 1,800～約 2,100	約 1,900～約 2,200
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約 1,400	約 1,500	約 40～約 300	約 80	約 70	約 200	約 1,600～約 1,800	約 1,700～約 1,900
愛知県	約 40	約 60	-	-	-	-	約 50	約 50
三重県	-	-	0～約 80	-	-	-	0～約 80	0～約 80

	12時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速 15m	風速3m	風速 15m
全国	約 800	約 900	約 30～約 200	約 70	約 30	約 90	約 900～約 1,100	約 1,000～約 1,100
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約 700	約 800	約 20～約 100	約 50	約 30	約 90	約 900～約 1,000	約 900～約 1,000
愛知県	約 20	約 30	-	-	-	-	約 20	約 20
三重県	-	-	0～約 30	-	-	-	0～約 30	0～約 30

	18時							
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災		合計	
		(参考)ばらつきを考慮			風速3m	風速 15m	風速3m	風速 15m
全国	約 800	約 900	約 30～約 200	約 80	約 100	約 400	約 1,000～約 1,100	約 1,300～約 1,400
岐阜県	-	-		-	-	-	-	-
静岡県	約 700	約 700	約 20～約 100	約 50	約 100	約 300	約 900～約 1,000	約 1,100～約 1,200
愛知県	約 30	約 50	-	-	約 20	約 40	約 60	約 80
三重県	-	-	0～約 40	-	-	-	0～約 40	0～約 40

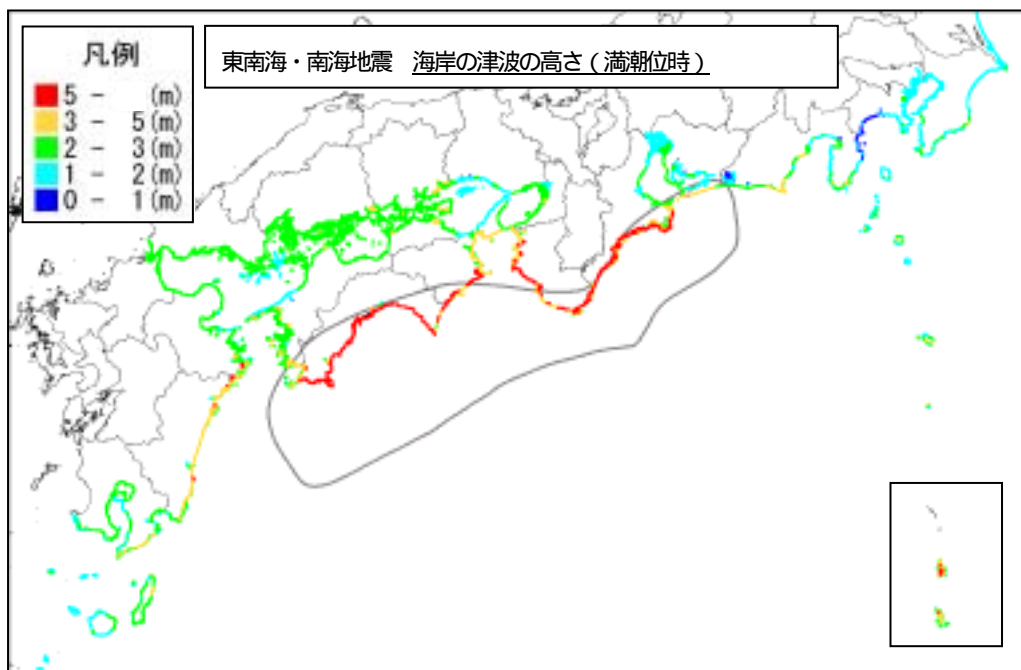
出典:「東海地震に係る被害想定結果について」(中央防災会議「東海地震対策専門調査会」/平成 15 年 3 月)



出典: 中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」(第10回)資料

波高分布

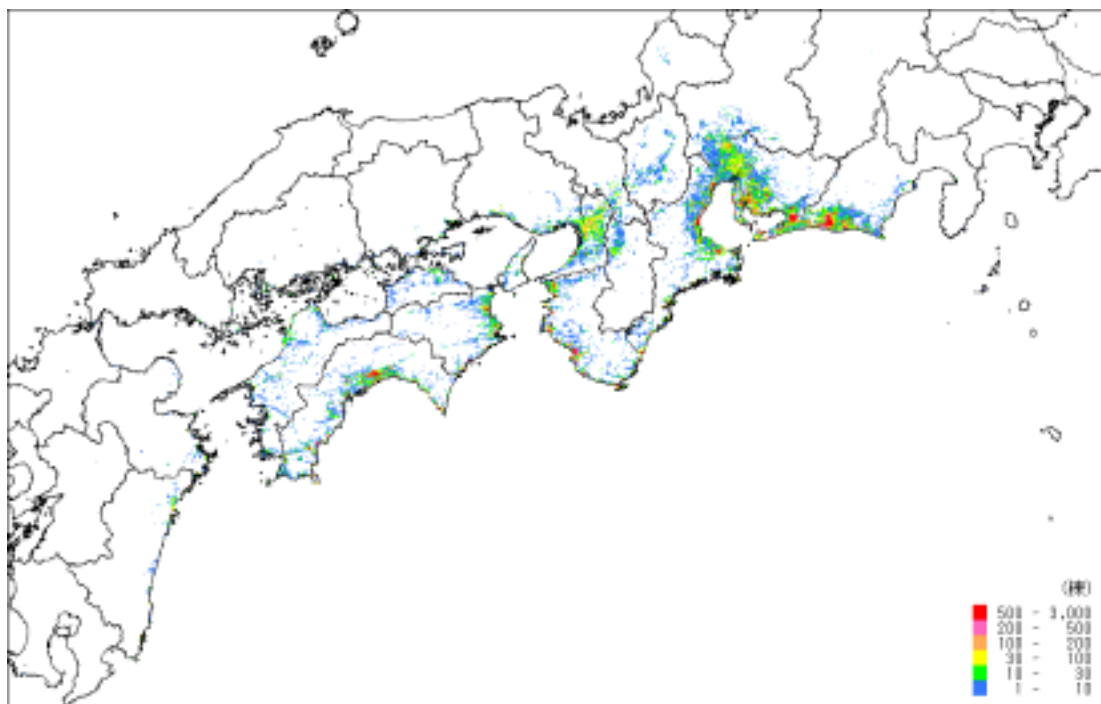
- 満潮時の津波の高さは、下図のように渥美半島付近で3m、豊橋市付近では6mに達する。



出典:中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」(第10回)資料

建物被害の状況

- 建物倒壊の分布については、下図のように、震度が高い地域における揺れや津波等による倒壊の他に、特に液状化による倒壊が大きいものと想定されることから、稠密な市街地を形成している名古屋都市圏における建物倒壊の被害が大きくなっている。(下図は、揺れ・液状化・津波・火災・傾斜地崩壊による倒壊分布を示している)



出典:中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」(第10回)資料

全壊棟数、死者数、経済被害の算出結果

- 中央防災会議「東南海・南海地震に関する専門調査会」では、下記の前提のもと、被害想定を実施した。その結果、被害は関東から九州にかけての広い範囲で発生し、揺れや液状化、津波、急傾斜地崩壊、火災による被害などをあわせて、建物被害は全倒壊数が最大で約62万棟、人的被害は死者が最大で約1万7,000人、経済被害については最大で約56兆円と想定される結果となった。
- 全壊棟数について、午前5時の場合、揺れにより愛知県が約45,800棟、三重県が29,500棟、岐阜県が約400棟と想定される。また、液状化、津波、斜面災害、火災の影響を加味すると、その被害は、愛知県で約80,800棟～約90,300棟、三重県で約45,300棟～約54,200棟、岐阜県で約4,000棟に達する。
- 死者数について、午前5時の場合、三重県で約1,900人～2,600人、愛知県で約1,700人～約1,800人、岐阜県で約20人と想定される。3県における死者数は、全国の約30%を占める。

■被害想定的前提

(1) 想定基礎となる地震動及び津波の高さ

地震動及び津波の高さについては、過去の実際の地震との整合性を確認すること等によりとりまとめた震度分布及び津波の高さ分布を用いた。

ここで想定した、東南海、南海地震のマグニチュードは8.6である。

(2) 想定ケースについて

<地震発生時間>

建物被害の影響が最も大きいと考えられる冬の朝5時（阪神・淡路大震災と同様のケース）、職場等多くの人が自宅から離れている秋の昼12時（関東大震災と同様のケース）、及び、火災の影響が最も大きいと考えられる冬の夕方18時の3ケースとした。

<津波の想定>

津波の想定にあたっては、住民の避難意識が高い場合と低い場合に分けて検討を行うとともに、地震動により水門の機能低下等が発生した場合についても検討した。

<火災の想定>

火災の想定にあたっては、阪神・淡路大震災時と同様の風速3mの時と、関東大震災時と同様の風速15mの2種類のケースで検討した。

なお、参考として、震度6弱未満の部分のデータのばらつきを考慮した場合の検討も行った。

出典：中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」（第10回）資料

■全壊棟数

	5時						
	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災	合計
		(参考)ばらつきを考慮					
全国	約 166,500	約 197,100	約 88,300	約 38,800	約 20,600	約 13,000 ~ 約 39,100	約 327,100 ~ 約 353,200
岐阜県	約 400	約 1,200	約 3,500	-	約 80	-	約 4,000
静岡県	約 34,000	約 35,900	約 5,300	約 60	約 1,200	約 3,100 ~ 約 10,100	約 43,600 ~ 約 50,600
愛知県	約 45,800	約 57,600	約 27,500	-	約 2,600	約 4,900 ~ 約 11,400	約 80,800 ~ 約 87,300
三重県	約 29,500	約 34,600	約 7,500	約 3,600	約 2,900	約 1,700 ~ 約 6,700	約 45,300 ~ 約 50,200

	12時						
	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災	合計
		(参考)ばらつきを考慮					
全国	約 166,500	約 197,100	約 88,300	約 38,800	約 20,600	約 12,700 ~ 約 38,500	約 326,800 ~ 約 352,600
岐阜県	約 400	約 1,200	約 3,500	-	約 60	-	約 4,000
静岡県	約 34,000	約 35,900	約 5,300	約 60	約 1,200	約 2,800 ~ 約 9,500	約 43,600 ~ 約 50,000
愛知県	約 45,800	約 57,600	約 27,500	-	約 2,600	約 4,900 ~ 約 11,400	約 80,800 ~ 約 87,300
三重県	約 29,500	約 34,600	約 7,500	約 3,600	約 2,900	約 1,700 ~ 約 6,700	約 45,300 ~ 約 50,200

	18時						
	揺れ		液状化	津波	斜面災害	火災	合計
		(参考)ばらつきを考慮					
全国	約 166,500	約 197,100	約 88,300	約 38,800	約 20,600	約 114,000 ~ 約 301,800	約 428,200 ~ 約 615,900
岐阜県	約 400	約 1,200	約 3,500	-	約 60	約 800 ~ 約 1,700	約 4,800 ~ 約 5,700
静岡県	約 34,000	約 35,900	約 5,300	約 60	約 1,200	約 22,400 ~ 約 62,500	約 62,900 ~ 約 102,900
愛知県	約 45,800	約 57,600	約 27,500	-	約 2,600	約 40,500 ~ 約 99,700	約 116,400 ~ 約 175,600
三重県	約 29,500	約 34,600	約 7,500	約 3,600	約 2,900	約 19,800 ~ 約 47,200	約 63,400 ~ 約 90,800

■ 死者数

	5時					
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災	合計
		(参考)ばらつきを考慮				
全国	約 6,500	約 7,800	約 3,300 ~ 約 8,600	約 1,900	約 100 ~ 約 400	約 11,900 ~ 約 17,400
岐阜県	約 20	約 60		-	-	約 20
静岡県	約 1,300	約 1,400		約 100	約 30 ~ 約 100	約 1,400 ~ 約 1,500
愛知県	約 1,400	約 1,800	-	約 200	約 60 ~ 約 100	約 1,700 ~ 約 1,800
三重県	約 1,300	約 1,600	約 400 ~ 約 1,000	約 300	約 20 ~ 約 70	約 1,900 ~ 約 2,600

	12時					
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災	合計
		(参考)ばらつきを考慮				
全国	約 2,900	約 3,400	約 2,200 ~ 約 4,100	約 1,000	約 60 ~ 約 200	約 6,100 ~ 約 8,100
岐阜県	-	約 20		-	-	約 10
静岡県	約 700	約 700	-	約 70	約 20 ~ 約 50	約 800
愛知県	約 700	約 800	-	約 100	約 20 ~ 約 50	約 800
三重県	約 500	約 600	約 200 ~ 約 400	約 100	0 ~ 約 30	約 900 ~ 約 1,100

	18時					
	建物倒壊		津波	斜面崩壊	火災	合計
		(参考)ばらつきを考慮				
全国	約 3,900	約 4,700	約 2,300 ~ 約 5,000	約 1,300	約 800 ~ 約 2,100	約 8,300 ~ 約 12,300
岐阜県	約 20	約 50		-	-	約 20 ~ 約 40
静岡県	約 600	約 700	-	約 70	約 100 ~ 約 300	約 800 ~ 約 1,000
愛知県	約 1,200	約 1,500	-	約 200	約 400 ~ 約 900	約 1,800 ~ 約 2,300
三重県	約 700	約 900	約 200 ~ 約 600	約 200	約 100 ~ 約 300	約 1,200 ~ 約 1,700

想定結果による東南海、南海地震の特徴

甚大な被害

大規模火災による多数の死傷者を出した関東大震災や情報が十分に伝わらずに多数の死者を出した明治三陸地震津波などを除き、近年の我が国で最大の被害が想定される。

広域にわたる被害

関東から九州までの広い範囲で被害の発生が想定され、幅広く分布する相当数の被災地対応に、これまでの地震でとられた防災体制では十分対応できないおそれがある。

広域にわたる強大な津波による災害

東南海、南海地震は海溝型の地震であり、東海地震と比較して震源域が海域にある割合も多く、広域に巨大な津波が来襲し、甚大な建物被害や人的被害が発生することが想定される。

揺れと津波による複合災害

戦後日本に来襲した津波とは異なり、強い揺れにより建物が倒壊したところへ高い津波が来襲するため、複合災害による人的被害の増大が想定される。

大量の物資の不足

強い揺れが想定される海岸付近では、道路・鉄道が寸断されたり、津波浮遊物等により港も十分使えなくなり海からのアクセスも困難となるなど、孤立化するおそれがある。このため、人や緊急物資等の輸送が困難になり、救援や復旧に相当の支障をきたすおそれがある。

甚大な経済被害

最大で約 56 兆円の被害が想定され、阪神・淡路大震災の約 13 兆円や、想定東海地震の被害想定約 37 兆円と比較しても甚大な経済被害が想定される。

出典：中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」（第 10 回）資料

(4) 断層帯による地震の被害想定

「東南海、南海地震等に関する専門調査会」では、三河地震、養老・桑名及び岐阜・名古屋の各活断層による地震の被害想定を出す予定である（現在は検討段階であり、その結果は今後発表する予定）。

そのため、本資料では、参考として各県が実施している被害想定結果の概略を整理する。

関ヶ原 - 養老断層（岐阜県による被害想定）

岐阜県では、活断層研究会（1991）による定義に基づいた活断層の確実度・活動度や、過去の被害地震の発生履歴を検討し、その上で防災対策を進めるために有効な都市近郊に存在する活断層を対象とした想定地震（想定震源断層）を設定し、内陸型地震による被害について算出している。

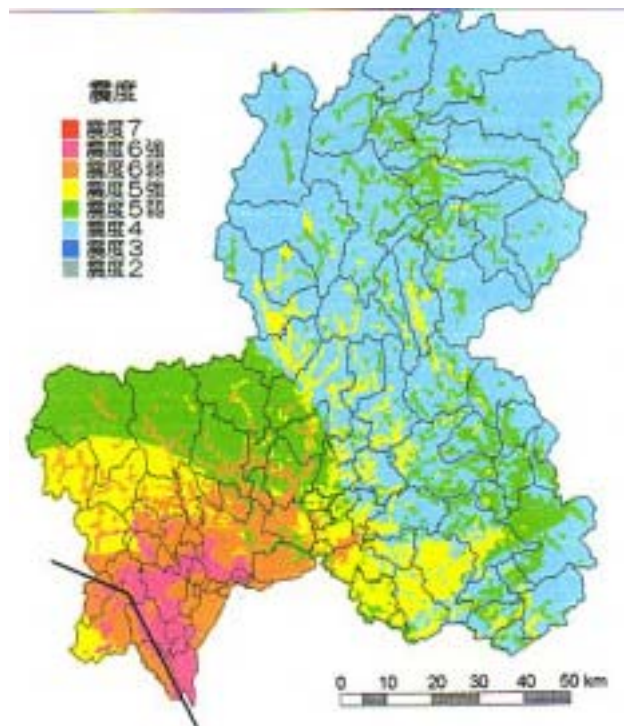
その1つに、滋賀県伊吹町から関ヶ原町を経て、養老山地の東側を通過する関ヶ原断層と養老断層が同時に活動した場合を想定し、その被害について算出している。

■ 関ヶ原—養老断層の被害想定概略

- ・ 濃尾平野を中心に震度6弱以上の強い揺れとそれによる液状化が懸念される。
- ・ 地震の被害は、濃尾平野とその周辺地域に集中する。
- ・ 建物やライフライン系被害は、都市化の進んでいる岐阜市、大垣市、羽島市などで目立ち、ライフラインの復旧にかなりの時間を必要とする。
- ・ 火災の危険性は揺れの大きな大垣市、建物が密集している岐阜市を中心に高くなっている。
- ・ 死者は、岐阜市・大垣市とその周辺で多数発生する。
- ・ 岐阜市・大垣市・羽島市をはじめ、避難者が1,000人を超える市町村が多数予想される。

マグニチュード		7.7
建物被害	全 壊	79,880 棟
	半 壊	176,290 棟
出 火 件 数		178 件
人的被害	死傷者数	2,493 人
	重傷者数	4,506 人
	軽傷者数	86,197 人
	要救出者数	9,089 人
	避難者数	439,262 人

出典：岐阜県地域防災計画



桑名断層（三重県による被害想定）

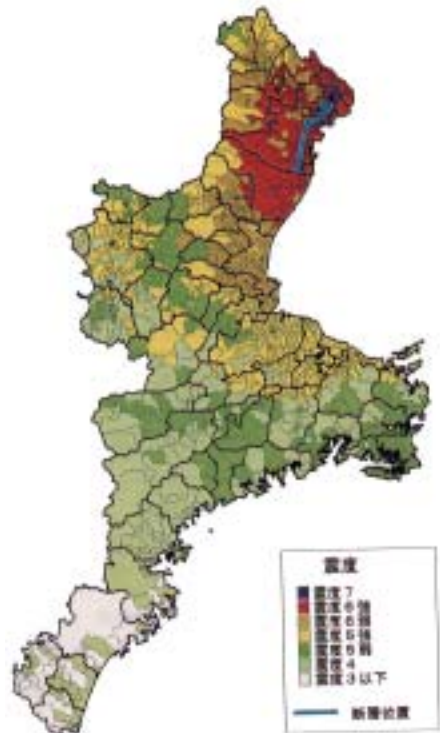
三重県では、想定東南海地震、想定南海地震及び内陸直下地震による被害想定を実施しているが、このうち桑名断層群のケースにおける被害想定の大略については、次のとおりである。

■ 桑名断層群モデルによる被害予測の大略

Point

北勢地域の一部で震度7の極めて強い揺れ
津波の心配はない
四日市市で死亡者約1,300人、負傷者約11,000人
幹線道路の被害は北勢地域内に限定
人口は集積している都市域を中心に被害
コンビナート施設が被害を受けた場合、近隣住民の安全確保が課題

被害が集中する地域		北勢地域
予 害	死亡者	4,900
	負傷者	42,000
	長期避難者	450,000
	建物被害	140,000
	炎上出火箇所	1,600
	急傾斜地崩壊数	280
	ガス管破損数	2,000



出典：「三重県地域防災計画被害想定調査報告書」（平成9年3月）